ポスターコード３６計 （いつまでにどこまで達成させるか）　　　　　　　　　　　領域　　　　　　　　　　班

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １０／１６ |  | １０／１８ |  | １１／８ |  | １１／１０ |  | １／１２ |
| 手書きポスター提出時 |  | 領域内発表質疑応答 |  | ＰＰポスター提出時 |  | 全体発表質疑応答 |  | 成果発表ポスター提出時 |
|  |  |  |
| タイトル | A1□ | タイトルをこの研究でのキーワード（フィールド）をすべて含んで書いている。 |
| A2□ | 具体性のないスローガンが独り歩きしておらず，キーワードの定義を把握している。 |
| A3□ | 主題・副題を見ればＱ＆Ａ（または目的と方法・対象）がわかるように書いている。 |
| A4□ | 学校名・メンバー氏名を書いている（領域・班は無記入）。左上タグが学年・領域と一致している。 |
| A5□ | 概要（研究骨子）をできるだけ短い文章で簡潔に書いている。 |
| A6□ | 結論（の見通し）を上部に強調して書いている。 |
| 目的 | B1□ | 背景を主観や一部の偏った意見ではなく客観的な現状・事実として書いている。 |
| B2□ | 先行研究を調査して解明されたこと，まだ解決されていないことが区別できている。 |
| B3□ | 問題提起が問題の原因を追及して答えが出せる意味のある問いになっている。 |
| B4□ | その問題が解決を必要とする理由の裏付け，他者にとって意義のあることを説得している。 |
| B5□ | 背景－問題提起－意義を通して，この課題がいかに深刻であるか伝わるように工夫している。 |
| B6□ | 仮説が問いに対して問題の原因を探る着眼（切り口）にオリジナリティのある答えになっている。 |
| B7□ | 仮説の検証を実際に何を行ったのか具体的に示している。 |
| B8□ | 背景から検証まで各項目に憶測や思い込みがなく，暗黙の前提とする事実にエビデンスがある。 |
| 方法 | C1□ | 課題に関わっていて研究目的に合致した調査対象を書いている。 |
| C2□ | 調査手法を具体的におこなったことについて手順をふまえて書いている。 |
| 結果 | D1□ | データを必要十分に集めており，数値化・図表化して載せている。 |
| D2□ | グラフの軸スケールが適切であり，特に伝えたい部分が配色・吹き出しなどで強調されている。 |
| D3□ | 結果（の見通し）をデータを正確に表現した一文（句，フレーズ）で書いている。 |
| D4□ | 考察（の見通し）を複数の結果から解釈・推論した一文（句，フレーズ）で書いている。 |
| まとめ | E1□ | 結論の根拠を信頼度の高い証拠に基づきＱからＡまで飛躍なく論理的なつながりで書いている。 |
| E2□ | 結論を主体的なアクションプランとして提案し今後の発展や課題に言及している。 |
| E3□ | 仮説－検証－データ－考察を通し，課題の分析がいかに明快であるか伝わるように工夫している。 |
| E4□ | この結論（解決策）の提示がいかに効果的であるか伝わるように工夫している。 |
| E5□ | この提案（アクションプラン）の実現可能性がいかにリアルであるか伝わるように工夫している。 |
| 理解 | F1□ | 意味の分からない単語を使っていない。用語にはポスターの流れに沿った初出段階で解説がある。 |
| F2□ | 高い／低いなどの形容・状況把握が主観的でなく，データに基づき比較・対比できる情報がある。 |
| F3□ | 出典を公的機関のネット記事だけでなく夏の文献調査を含む活字媒体から明記している。 |
| F4□ | この研究で最も強調したいアピールポイント（最もおもしろい部分）が最強調されている。 |
| F5□ | なぜ書いているのか自分で説明できない不必要な蛇足がない。 |
| 表現 | L1□ | 説明は文章（=文の集まり）に頼らず，箇条書き・体言止めで簡潔化し，図や表を活用している。 |
| L2□ | 箇条書きによって生じる右側の余白を図や表を活用して適切にレイアウトしている。 |
| L3□ | 論理展開を上から下への流れでレイアウトし，セクションのまとまりを明確にして並べている。 |
| L4□ | パソコンのスキル不足による図や表の妥協がなく，フリー素材を適切に活用している。 |
| L5□ | 余白幅が統一され，行間のバランスに無駄な余白がない。 |
| L6□ | ネットから安易にコピペした図や表を不適切な解像度で用いていない。凡例は作りなおしている。 |